

令和 2 年度

報 告 書

庶務報告

会員数

令和2年4月1日現在	326名
令和2年度入会者	15名
令和2年度退会者	17名
令和3年4月1日現在	324名

令和2年度入会者

- 木村大作（自宅会員）
- 吉武朋子（自宅会員）
- 宮内多恵（大分総合健診センター）
- 武井崇展（農協共済別府リハビリテーションセンター）
- 廣田潤（石垣病院）
- 野村威雄（中村病院）
- 安部怜樹（別府湾腎泌尿器病院）
- 阿部正（自宅会員）
- 本庄浩（畑病院）
- 雨宮由佳（大分県厚生連健康管理センター）
- 有馬誠（大分県厚生連鶴見病院）
- 奥平敏章（村橋病院）
- 岩尾俊昭（別府駅ゆのまち内科・胃と腸クリニック）
- 山本正浩（鶴見台病院）
- 山上由理子（別府中央病院）

令和2年度退会者

松 山 雅 人 (畑病院)
後 藤 一 美 (死亡)
鈴 木 駿太郎 (別府湾腎泌尿器病院)
板 井 真梨子 (農協共済別府リハビリテーションセンター)
中 村 夏 樹 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
橋 永 邦 彦 (畑病院)
赤 嶺 晋 治 (大分県厚生連鶴見病院)
内 倉 洋 三 (死亡)
相 川 久 幸 (大分総合健診センター)
清 水 浩 (自衛隊別府病院)
井 原 和 彦 (独立行政法人国立病院機構別府医療センター)
田 中 克 宏 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
野 口 地 塩 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
三 浦 隆 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
三 浦 光 年 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
安 部 怜 樹 (別府湾腎泌尿器病院)
財 前 行 宏 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)

会 議

定時総会	1回
定例理事会	27回

一般社団法人別府市医師会第74回定時総会

令和2年6月26日(金)

第1号議案 令和2年度会費賦課徴収金額の件他5件

定 例 理 事 会

第1回理事会 4月1日(水)

医療機関におけるマスク等の必要量に係る調査について他14件

第2回理事会 4月15日(水)

令和2年度学術事業年間予定表について他17件

第3回理事会 4月28日(火)

新型コロナウイルス発熱外来及びPCRセンターについて他11件

第4回理事会 5月13日(水)

PCRセンター開設に向けた医師・看護師募集について他11件

第5回理事会 5月27日(水)

医療・健康情報アプリ「ゆけむりあんしんパレット」の広報のお願いについて他13件

第6回理事会 6月10日(水)

別府市医師会夏のレクリエーションの中止について他13件

第7回理事会 6月24日(水)

PCRセンターについて他16件

第8回理事会 7月8日(水)

別府地域保健委員会委員の推薦について他16件

第9回理事会 7月22日(水)

下関市医師会との親善スポーツ大会の中止について他10件

第10回理事会 8月5日(水)

別府市医師会メディカルセミナーの中止について他7件

第11回理事会 8月19日(水)

学校名について他7件

第12回理事会 9月2日(水)

PCRセンター移設と今後の体制について他12件

第13回理事会 9月16日(水)

ファルコ社との契約更新について他10件

第14回理事会 9月30日(水)

今冬のインフルエンザの流行期を見据えた体制整備のアンケート調査及び発熱外来開設に向けた医師・看護師募集について他9件

- 第 15 回理事会 10 月 14 日（水）
 令和 2 年度年末年始在宅当番医について他 8 件
- 第 16 回理事会 10 月 28 日（水）
 婦人科開設について他 9 件
- 第 17 回理事会 11 月 11 日（水）
 発熱外来について他 14 件
- 第 18 回理事会 11 月 25 日（水）
 令和 3 年度推薦入学試験合格者選考について他 8 件
- 第 19 回理事会 12 月 9 日（水）
 検査運営検討会のメンバーについて他 6 件
- 第 20 回理事会 12 月 23 日（水）
 課程変更に伴う学則変更について他 7 件
- 第 21 回理事会 1 月 6 日（水）
 委託業者の契約更新に伴う意見募集について他 7 件
- 第 22 回理事会 1 月 20 日（水）
 次期契約について他 11 件
- 第 23 回理事会 2 月 3 日（水）
 次期契約案の不合意について他 19 件
- 第 24 回理事会 2 月 17 日（水）
 検査会社の選定について他 10 件
- 第 25 回理事会 3 月 3 日（水）
 予備費流用について他 12 件
- 第 26 回理事会 3 月 17 日（水）
 検査集配業務の医師会移管について他 18 件
- 第 27 回理事会 3 月 31 日（水）
 検査集配業務移管に伴う業務体制について他 11 件

事業報告

令和2年度に予定された事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し、中止・延期となった行事が目立ち、事業を順調に行うことができなかった。

本会では新型コロナウイルス感染症の対応と会員医療機関の診療・検査体制をバックアップするため、5月25日よりPCRセンターを開設した。開設当初は東部保健所の敷地内で、ドライブスルー用にテントを設置し、医師が咽頭拭いするという方式で立ち上げたが、検査の予約が入った日は、毎回テントを設置・撤去する必要があるため、雨や風、暑さ等天候に左右されることもあり、医師による咽頭ぬぐい液採取の感染リスクとスタッフの安全を最優先に判断し、6月16日より医療機関で患者自ら唾液を採取して非接触なかたちで検体を回収する運用となった。PCRセンターの活動は検体の回収方法を変えながらではあるが、現在も続けている。

また、11月22日より、日曜日・祝日の在宅当番医の負担軽減とインフルエンザの蔓延期に備えて発熱患者に抗原キットを使用し、新型コロナウイルス感染患者をトリアージする発熱外来トリアージセンターを立ち上げた。患者には対象療法の薬を処方し、キットで陽性と判定された患者は唾液を採取してPCR行政検査へ回す流れであるが、その活動は医師会として地域医療に貢献するという社会的使命のもと、PCRセンターと同様に現在も続けている。

総務部門では、令和2年6月26日の定時総会により令和元年度決算が承認された。事業については、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学術研修会、夏のレクリエーション、速見郡杵築市医師会・国東市医師会との懇談会、市民救急フォーラム、下関市医師会との親善スポーツ大会、メディカルセミナー、三師会合同役員会、忘年会、新年会などの事業が軒並み中止となり、11月から再開できた学術事業も3密対策のための会場変更、時間短縮、WEB開催等を余儀なくされた。

地域保健センターは、平成元年以来、検査部門と健診部門が相互補完しながら事業を遂行してきたが、コロナ禍は検査部門に大幅な受注減と収益低下をもたらし、平成18年度より検査委託しているファルコバイオシステムズ株式会社との契約も最終年度を迎えたことから、次期契約については検査部門の現状を会員へ説明のうえでアンケート調査を事前に行い、激変を緩和することを第一に考え特定健診・がん検診・小児生活習慣病健診など行政機関からの委託業務を必須として、集合契約を前提とする方向で検査委託先の選定を行った。選定にはファルコ社を含めBML社、SRL社より、検査体制、検査料率、集配に対する提案についてプレゼンと個別のヒアリングを行い、固定費（人件費）、価格、検査の精度と迅速性、医師会に対するサービスを評価ポイントとして総合的に検討した結果、令和3年度からはBML社に変更することとなった。

看護教育では、教職員の尽力により令和2年度准看護学科を卒業した31名が受験し全員が合格した。また、看護学科では、卒業した25名のうち24名が合格となり、96%の看護師国家試験合格率であった。今後も、本校を卒業した准看護師、看護師が地域医療のために会員の先生方の手助けとなり、即戦力となって力を発揮することが出来るよう努力する所存であるが、そのためには優秀な教員の確保と研修、より学習、指導のしやすい環境づくり、施設設備の充実など、諸費用のかかる問題が多いが、看護師の養成は医師会が地域医療に果たす責務でもあるため、看護学校事業に関する議論について、会員各位には積極的にご参加いただきたい。

地域福祉部門は、関係会員と職員の尽力により訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、ヘルパーステーション3部門総じて利用状況は昨年度に比較してほぼ横這いを維持しているものの、新規利用者数が減少傾向にあることに加えて、新型コロナウイルス感染症対策に係る経費が増加し、減収減益となった。収支改善のためには、感染対策を徹底した上で、地道に新規利用者数を増やしていく必要があるため、会員の先生方には、より一層の利用についてご協力をお願いしたい。

なお、事業遂行の詳細については、各部門の報告をご参照して頂きたい。

≪総 務 部≫

庶 務

令和2年4月3日に予定されていた令和2年度第1回臨時総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期となり、臨時総会で報告予定であった「令和2年度事業計画」と「令和2年度予算」、審議予定であった「令和2年度会費賦課徴収金額の件」は、6月26日の第74回定時総会で「令和元年度決算」と併せて報告・審議された。

「会費賦課徴収金額」については、看護学校の事業・運営のために4000万円の借入が必要となったため、b会費の必要性を提案・説明し、審議の結果、総会承認された。また、同時に審議された「次期役員等選出の件」については、前執行部のほとんどが留任したが、小川武彦理事、矢野篤次郎理事、堀内孝彦理事、木下晴之監事の退任、代わりに香川浩一理事、平川雅和理事、明石光伸監事の就任が承認された。

入退会については入会15名、退会17名と全体の会員数324名（前年度より－2名）、診療所の廃止が3件、開設が1件とA会員（開設者）が103名となった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために、変更や縮小、中止を余儀なくされた事業も少なくないが、会議についても、月2回開催している理事会のうち1回を3密対策としてリモート開催している。また、この1年間で本会のみならず大分県医師会、東部保健所や別府市などの行政、企業等が主催するそれぞれの会議や講習会において、ZoomやMicrosoft Teams等を利用したオンライン化が進んでおり、これにともない紙媒体を介さないメールやWEB上での情報伝達・情報交換も既に広く一般的になっていることから、現状を総合的に検討した結果、令和3年4月より回覧文書等の通知については、従来の集配便による紙媒体での通知を終了し、BMA配信メール（回覧文書メール配信システム）と別府市医師会ホームページでの通知とすることを理事会決定した。医師会報や総会議案書、内容的にWEB及びメール配信に支障のある文書等については従来どおり配布する予定であるが、これを機会にペーパーレス化をより一層推進していくので、会員諸賢のご理解とご協力をお願いしたい。

また、令和2年の春先には慢性的に不足していたマスク、ガウン、フェイスシールド、消毒液等医療物資が国（厚生労働省）や大分県から定期的に届くようになり、医師会事務局で数量を管理しつつ医療機関に配布した。秋以降は、県主導による検査・診療を行う医療機関の体制も整い、国や県から直接医療機関に医療物資が届くようになったため、医療物資の不足に悩まされる状況は解消されている。

コロナ禍においては、医療物資の充実や地域医療体制の整備はもちろんだが、新型コロナウイルスワクチン接種が国民全体に広く行き渡るまでの間は、感染症に対する個人個人の行動や意識が重要となる。新しい生活様式が提唱され、ソーシャルディスタンス、マスクの着用、手指消毒、出勤前の検温は日常生活を送っていくうえでのエチケットとして定着しているが、職員にもその徹底を周知している。

事業所としての内部管理体制では、今後、働き方の新しいスタイルとして、テレワークやローテーション勤務、会議のオンライン化への対応が必要となってきている。平成31年4月より「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律（働き方改革関連法）」が施行され、事業主には「年次有給休暇の時季指定」・「労働時間の状況の把握」等が義務化されたこととともない、職員の有給取得状況を確認のうえ、取得日数が5日を下回らないよう管理者より職員

に取得促進を促しているが、今回のコロナ禍は今後の働き方を否応なく考えさせられる契機となっており、労務面でもICTを活用した場所や時間にとらわれない働き方、テレワークの導入による職員のワークライフバランスの向上等、ポストコロナを見据えた環境づくりを今から準備しておく必要がある。

各事業部門及びそれらを統括する本会の財政・経営状況は依然厳しいものであるが、事業の継続性を担保するためには、経費削減はもちろん、緊張感をもった事業戦略と更なる創意工夫が必要である。

令和2年4月3日 別府市医師会（令和2年度第1回）臨時総会 中止

6月11日 代議員・予備代議員・県医役員合同会議

14日 一般社団法人大分県医師会第219回定例代議員会

26日 一般社団法人別府市医師会第74回定時総会

8月27日 新入会員インフォメーション

学 術

当初5回を予定していた今年度の学術事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月の学術研修会と10月のメディカルセミナーが中止となった。さらに、例年6月に開催している大分県糖尿病臨床医会との共催による糖尿病に関する学術研修会についても、大分県糖尿病臨床医会より地区郡市医師会ごとの開催を中止するという連絡があり、本会の学術事業としても実施することができなかった。実際に開催できたのは、2回（11月、1月）の医療安全管理対策研修会、別府市医師会学術集会（2月）のみとなり、いずれも感染対策を前提としての開催となった。

11月の第1回医療安全管理対策研修会は、3密対策の観点からソーシャルディスタンスの確保を目的として、例年使用していた別府市公会堂の講座室から、より広い大ホールに会場を変更して開催された。参加者は医療機関より原則1名とし、当日発熱等の風邪症状がある場合は受講をご遠慮いただき、マスクの常時着用、座席指定にご協力いただいた。講演は、医療事故調査制度の概要、医療事故発生時の対応、センター報告の手順、院内調査の進め方、事故報告書の作成、遺族への説明の6つの内容を中心に行われた。

1月の第2回医療安全管理対策研修会は、Microsoft Teams を利用したWeb参加と会場参加（医師会館視聴覚室において参加人数を20名に制限）を併用したハイブリッド開催とした。講演については2名の講師から転倒予防に関する講演をいただいた。患者入院後速やかに看護師と患者の間で転倒予防のためのカンファレンスを行うこと、各医療機関で転倒を生じやすい患者背景を把握して情報を共有すること、患者が腹筋を意識しながら体力づくりや運動を行うことなどが、転倒予防に有用であるとの報告があった。

2月末に開催している学術集会についてもハイブリッド開催とした。今年度は開催時間を短縮するために、一般演題を6題に制限し、開始から特別講演終了までを2時間とした。特別講演は大分大学医学部放射線医学講座の浅山良樹教授に「放射線医学部の最近の話題」という演

題で、MDCT, Dual Energy CT, Carving 造影 CT, MRI (CEST imaging), X 線動画撮影, 腎腫瘍に対する CT ガイド下凍結療法, AI についてご講演いただいた。講演終了後には、AI 等の実用やリモート放射線診断についての質疑応答があった。

新型コロナウイルス感染症の終息が見えないなか、感染対策と事業遂行のためには、当面の間、ハイブリッド開催を余儀なくされると考えられる。今回の Web 視聴においては、音声の聞こえにくさや、一時的に発表スライドが共有されていなかった等の問題があり、今後改善していく必要がある。学術事業は、日々進歩する医学や変化する医療情勢に関する最新の情報を提供することにより、会員のさらなる医学知識の充実とスキルアップを目的としている。研修会・講演会の内容や開催方法などについて、いろいろとご意見をいただければ幸いである。

日 時	集 会 名	テ ー マ	講 師	出席者数
令和2年 4月20日	学術研修会	「ロボット手術の現状と 将来展望－泌尿器科疾患 を中心に－」	別府湾腎泌尿器病院 病院長 佐藤 文憲 先生	中止
10月24日	別府市医師会 メディカルセミナー		①大分大学医学部附属病院 高度救命救急センター 副センター長 石井 圭亮 先生 ②九州大学病院 グローバル感染症センター センター長 下野 信行 先生 ③久留米大学医学部 外科学講座 心臓血管外科 教授 田山 栄基 先生	中止
11月24日	第1回医療安全管理 対策研修会	「もう一度知っておきま しょう。医療事故調査制 度」	大分県厚生連鶴見病院 副院長・医療安全管理室長 加賀 明彦 先生	会 員 13 名 一 般 32 名
令和3年 1月26日	第2回医療安全管理 対策研修会	①「看護研究で根拠を得 た転倒防止の取り組 み」 ②「転倒予防につながる 体力づくり」	①九州大学病院別府病院 看護室 磯邊 幸代 氏 ②九州大学病院別府病院 慢性疾患診療部 生野 有一 氏	会 員 33 名 非会員 1 名 一 般 22 名
2月27日	別府市医師会 学術集会	一般演題「6題」 特別講演 「放射線医学の最近の話 題」	大分大学医学部 放射線医学講座 教授 浅山 良樹 先生	会 員 22 名 非会員 11 名

保 険

令和2年度は診療報酬改定が行われ、健康寿命の延伸、人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」の実現等が基本認識として示され、診療報酬本体がプラス0.55%、薬価・材料はマイナス1.01%となり、全体としてマイナス0.46%となった。また、新型コロナウイルス感染症のまん延のため、届出が必要な施設基準の提出期限の延長が行われるなどの対策がとられ、新型コロナウイルスに関する診療マニュアルや手引き、臨時的な対応や疑義解釈等も必要に応じ、その都度、会員に通達を行った。

令和3年3月より開始予定だったオンライン資格確認等システムだが、プレ運用にて「医療機関の準備が予定通りに進んでいないこと」や「データ精度の問題」など様々な課題が浮き彫りとなり、本格運用が10月へと変更された。3月までにカードリーダーを申し込んだ医療機関は標準的システムの改修費が全額補助、4月以降は病院・薬局では50%、診療所では75%が補助されることになっている。今後、システム運用開始まで紆余曲折が考えられるので、動向を注視したい。

個別指導も新型コロナウイルスのまん延に伴い、本年度は開催が見送られた。ただいつ再開されるかは不透明なため、毎年挙げているがカルテ記載にはより一層留意し、指導対策ではなく、適正な保険診療・保険請求が望まれる。

令和2年 8月21日	第1回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会
10月16日	第2回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会
12月18日	第3回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会
令和3年 2月19日	第4回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会

会 員 福 祉

今年度の会員福祉事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年開催している夏のレクリエーション、下関市医師会との親善スポーツ大会、三師会合同役員会、忘年会、新年会等、そのすべてが中止となった。

会員同士の情報交換や親睦を深める場でもある上記行事が中止となったことは、残念なことであるが、逆にコロナ禍であるからこそ、会員同士のヨコのつながりの重要性を再認識することにもなった。

また、会全体の会計収支を総合的に検討した結果、毎年ゴルフ部、テニス部、ボウリング部、野球部等の部活動に対する補助金については、令和3年度以降、当面の間見送ることを理事会決定した。各部の部員の先生方に対しては、大変心苦しい決定となったが、事情をご賢察の上ご理解賜りたい。

今は、ポストコロナを見据えて、医師会事業全体の見直しを迫られているが、今後の事業運営に際して、会員同士の連携や協力は、今以上に求められることが必至であり、そのためにも日常からの会員同士の関係構築は重要である。

コロナ収束後とはなるが、会員各位には医師会行事への積極的な参加をお願いするとともに、医師会行事を利用することで、会員間の連携、病診連携、地域連携構築の一助としていただきたい。

令和2年8月30日 第102回会員親睦囲碁大会（本因坊戦・一般戦）

10月23日 令和2年度大分県医師会医療機関経営（Web）セミナー

広 報

会報委員会において編集会議を行うとともに、会報委員会メーリングリスト（ML）において情報交換を行って議論を重ね、医師会報の充実に努めた。

別府市医師会報は、①医師会の主張と広報、②医師会活動の正確な記録、③医師会員の医療活動への意識の啓発、この3点をめざし年に4回の発刊を続けている。

「私のお気に入り」では、『日豊本線沿線の思い出』（新緑号）、『COVID-19 パンデミックの世相に思うことーバツハの世界よりー』（秋季号）と題して執筆して頂いた。

「ちょっとお勉強タイム」では、突発性発疹（Roseola）の罹患年齢の変化（新緑号）、マイナンバー制度の健康保険証への問題点と対応（新春号）など診療に直結する身近なことや国政での重要問題など幅広く執筆者の方々から問題提起をして頂いた。

また、夏季号は通巻第200号となったことから記念特集を組み、現在の会報委員と過去に会報委員会に在籍した13名の先生方に委員会の思い出や医師会報に対する今後への期待について原稿をお寄せいただくとともに、100号（平成7年）から200号（令和2年）の25年にわたる会報委員会の歩み、歴代委員名簿、アンケート調査の集計結果を掲載した。

アンケートの集計結果をふまえ、今後も、会員の先生方への情報提供・共有ツールとしての役目を担い、編集部一同協力して医師会報の内容充実につとめていきたいと考えているので、

引き続き、御意見、御要望なども含めてご協力をお願いしたい。

令和2年 5月7日 夏季号 編集協議会
8月7日 秋季号 編集協議会
11月4日 新春号 編集協議会
令和3年 2月2日 新緑号 編集協議会

医 政

令和2年度については、国政、地方ともに別府市に関して選挙は行われなかったが、令和4年度には参議院議員選挙が予定されており、既に日本医師会の組織内候補として自見はなこ氏の比例代表区からの立候補が決定している。

日本医師連盟からも、自見氏の討議資料やポスターの配布依頼があり、選挙に向けた動きが始まっている。

また、令和3年には衆議院議員選挙が予定されていることから、総選挙に向けた準備が加速しつつある。

日本医師会では、新型コロナウイルス感染症の拡大が医療機関の経営に与える影響を把握するために、令和2年3月以降、会員医療機関におけるレセプトデータや損益状況等について継続的に調査しており、調査結果は、その都度、概要をまとめ、定例記者会見で公表後、官邸をはじめ様々な場面で医療機関が経営難になることで医療提供体制の崩壊が迫っている状況を訴えている。

診療科によっては、前年度に比べて収益が大幅減となり経営的にも非常に厳しい医療機関が散見され、新型コロナウイルス感染症は未だに収束が見込めないことから、国や与党に対して、さらなる医療機関経営への支援を求めていく必要がある。

医師連盟としても、「支援や診療報酬の改定率は最終的には政治で決まる。」ということを含頭置かなければならないが、そのためには日常から政治にしっかり働き掛けていくこと、組織として一致して取り組んでいくことが必要であり、その積み重ねが診療報酬改定や選挙戦に影響してくる。

医療情勢は依然として混沌としているが、今後も、医療・福祉・介護の充実はもちろん、医師会活動をスムーズに進めていくためには、医政活動も重要である。会員各位の御理解、御協力をお願いする。

会 計

令和2年度正味財産の経常増減（損益ベース）は、全体で836万円減少となった。各部門間の繰り入れを除くと看護専門学校が約3500万円減少、地域福祉部門が約340万円減少した。新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた初期救急医療事業は国の補助金や別府市の支援によりプラスとなった。

収支では事業活動収支は全体で 1551 万円のプラスである。

部門別にいくつかの要点を示す。

本会：事業活動収支は、約 2290 万円のマイナス。看護学科に 1300 万円、准看護学科に 2300 万円、地域保健センター健診部門に 800 万円の繰り入れを行ったことが要因である。西日本シティ銀行から 4000 万円の借り入れを行った。施設管理会計では将来に備え営繕費積立金を 1000 万円積み立てることが出来た。

地域保健センター：健診部門は新型コロナウイルス感染予防対策による受診自粛の影響はあったが事業活動収支は 1026 万円のプラスであった。

初期救急医療事業：夜間こども診療、休日内科診療は新型コロナウイルス感染症による受診控えが影響し大きく減収したが国の補助金、別府市の支援金によりマイナスは避けられた。また臨時的に開設した婦人科診療は安定した収入を得ることができ、発熱外来トリアージセンター、PCRセンターもプラスとなり、事業活動収支は約 967 万円のプラスであった。

看護専門学校：看護学科は学生数定員割れによる減収。准看護学科は今年度 2 年生のみであるため昨年に比べ約 2300 万円減収となった。運営補助として本会から看護学科に 1300 万円、准看護学科に 2300 万円の繰り入れを行った。

地域福祉部門：3 部門の事業活動収支は、約 383 万円のマイナス。各部門間の繰り入れを除くと訪問看護ステーションは、約 135 万円のマイナス、居宅介護支援センターは約 72 万円のマイナス、ヘルパーステーションは約 176 万円のマイナスとなる。

団体生命保険：今年度は 200 万円を本会へ繰り入れた。

詳細は各部門の収支明細書に示す。

令和 2 年 6 月 1 日	会計部会
6 月 2 日	会計並びに業務監査
12 月 2 日～ 16 日	会計部会（部門別）
令和 3 年 1 月 27 日	会計部会
2 月 15 日	会計部会

医療情報

平成17年度より懸案事項であった会員各施設をNTTの光回線を利用したプライベートネットワーク網は平成22年度に完成し11年目を迎える。医師会業務システムと地域医療連携システムを主体とする「ゆけむり医療ネット」が本格的に稼働している。今年度はインフラ整備として、希望する81施設のうち72施設に光回線を整備した。1施設は閉院のため返却された。また、地域医療連携システムで新別府病院・別府医療センター・厚生連鶴見病院が急性期医療分野として情報を公開しており、平成25年度から九州大学別府病院が加わった。そして平成23年度に県より助成を受けた地域保健センターも健診画像データや検査データを二次的に有効活用するため、基幹病院と同様に地域医療連携システムに公開している。平成27年度には「地域医療介護総合確保施設設備整備事業」へ薬剤師会と共同で整備し、市内の薬局67施設中65施設が接続して院外調剤情報を集積して「ゆけむり医療ID」で参照できる仕組みが整っている。4つの基幹病院と健診・検査センターの情報、院外調剤情報が患者個人の同意の基に共有できるようになっている。さらに東部医療圏（日出町・杵築市・国東市）や在宅医療などへの接続が可能となる仕組みを取り入れることにより、地域医療連携システムに東部医療圏（日出町・杵築市・国東市）の18医療機関がモニターとして参加してもらっている。北部医療圏の2施設がモニターを希望したため接続した。東部医療圏に所属する医師会とも話し合い、速見郡杵築市医師会と契約を交わし年間利用料をいただいている。

基幹病院からカルテ情報が公開されており、退院する際に患者から同意をとり、かかりつけ医へ公開する運用を取り入れることによりカルテ参照率が上がってきている。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により残念ながら委員会は開催されなかったが、PHRの仕組み作りは継続しており、ゆけむり医療カード（ICカード）の代用としてスマートフォンのNFC機能（ICカード機能）を利用したアプリ「ゆけむりあんしんパレット」を6月よりサービスを開始している。また、地域保健センターの健診結果をスマートフォンへ報告する取り組みを開始し、現在では個別の医療機関で受診したデータも反映できるようになった。個人で健診や薬のデータを管理できるPHRの仕組みづくりを進めていき、自分の意思で各機関に提示することで究極のプライバシー保護を堅持し、同意書の取得を簡素化したいと考えている。

医師会業務は「ゆのはなメディネット」と名付けられたグループウェアとして閉鎖されたネットワークの特色を生かし、メールや掲示板・ファイル管理機能を使い、個人情報が入ったファイルをメールに添付したり、会員の医療機関と医師会の事務局しか開けないフォルダを医療機関毎に作成し、レセプト代行送信をするなど効率の良い利用をしている。

インフルエンザ発生状況速報システムは今年で18年目を迎える。昨年度と同様に日々の発生分布状況をアニメーション化し、患者数の推移も記載、流行している地区を一目で判別出来るよう改善を行った。

色々な課題も含め、今後も医療の専門家集団として、ITに関しての提案・検討を各部門と一緒にやっていく所存である。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により下記会議は中止となった。

【医療情報システムネットワーク委員会および医療情報委員会】

【地域医療連携パス委員会 CKD 班】

【病診連携室との意見交換会】

【学会並びに研修会】

《地域保健センター部》

地 域 保 健

① 別府地域保健委員会

各小委員会活動については平成24年度より食育をテーマに妊婦・乳幼児・児童生徒・成人・高齢者のライフステージごとに教育・相談・指導を目的に食育推進小委員会が追加されました。

別府地域保健委員会の令和2年度の開催日は

令和2年8月28日 別府地域保健委員会総会

令和2年8月25日 大分県地域保健協議会総会

別府地域保健運営委員会の令和2年度の開催日は

令和2年4月30日・5月29日・6月30日・7月28日・9月29日・10月29日・11月30日・
12月25日

令和3年1月26日・2月26日・3月29日

各小委員会

1. 母子保健小委員会（令和2年8月5日）

母子健康手帳の交付、訪問指導の実施、健康診査（乳幼児集団健康診査）の実施、健康相談、教育の実施 医療対策事業（未熟養育医療の給付、不妊治療費等助成事業）、保健所療育事業、育児不安フォローアップ事業、ヘルシースタートおおいた推進事業

2. 学校保健小委員会（令和2年8月3日）

児童・生徒の生活習慣病予防健診、小児生活習慣病健診事後指導、たばこ対策、思春期対策、定期健康診断結果

3. 健康づくり対策小委員会（令和2年7月29日）

健康増進法に基づく保健事業（①健康手帳交付、②健康教育、③健康相談、④健康診査、⑤訪問指導）、各種がん検診（受診者数、要精密者数）特定健康診査・特定保健指導（受診者・受診率・推移）

4. 感染症予防小委員会（令和2年7月28日）

予防接種年度別実施状況、MR 予防接種率、予防接種の普及・啓発、平成29年度一般結核検診状況・結核検診要精密者の状況

5. 歯科保健小委員会（令和2年8月4日）

歯のコンクール、母子歯科保健（1歳6カ月、2歳6カ月、3歳5カ月）、健康教育、健康相談、成人老人歯科保健、妊婦歯科健診、公立保育所・公立幼稚園・小学校でのフッ化物洗口の取組み、歯と口の健康週間行事、各小学校へのポスター、チラシ配布啓発事業

6. 救急医療対策小委員会（令和2年7月29日）

休日在宅当番医制実施事業（初期救急医療）、第二次救急病院群輪番制事業（8医療機関が輪番制で実施）、小児救急医療支援事業（小児第二次救急医療）、小児初期夜間救急医療事業（夜間こども診療・夜間こども薬局）、休日等歯科診療事業、救急搬送状況、献血の普及・啓発

7. 精神保健対策小委員会（令和2年8月11日）

自殺予防対策（自殺予防の普及・啓発、ゲートキーパーの育成、地域での連携体制の構築、地域における相談機能の充実）、予防対策に向けた啓発、取組み

8. 食育推進小委員会（令和2年7月30日）

妊婦・乳幼児・児童生徒・成人・高齢者のライフステージごとに教育・相談・指導を実施。また、各世代共通として広報等の実施。

② 予防接種

今年度は、10月からロタウイルスワクチンが定期接種化された。接種間隔が見直しされ、生ワクチンについては接種後27日以上、不活化ワクチンについては接種後6日以上の間隔をおくこととされていたが、注射生ワクチンどうしを接種する場合は27日以上あける制限は維持しつつ、その他のワクチンの組み合わせについては制限を撤廃することとなった。また今年度は、ワクチンの販売停止（日本脳炎）や需要過多によるワクチンの供給不足（インフルエンザ・高齢者肺炎球菌）がみられた。高齢者肺炎球菌に関しては、シリンジ製剤が発売され、現在は落ち着いてきたが、BCGワクチンがCOVID-19に効果があるという情報から問い合わせが増える事例があったが、現在は落ち着いた模様。今後も、新型コロナワクチン製造のため、供給不足が起きる可能性もあるが、注意深く情報を確認し、会員へ正しい情報をお伝えしたい。

現在、新型コロナウイルスワクチンの医療従事者への接種、75歳以上の高齢者への接種が開始され、会員の方々にはご迷惑をお掛けしているが、市とも協力し、意見をくみ上げ、スムーズな接種が行えるよう手段を講じていく所存である。

地 域 医 療

令和元年11月に中国武漢で新型コロナウイルスの発生が確認され、同年12月31日に最初に世界保健機関(WHO)に報告された。その後、元年から翌2年にかけて発生した中国武漢でのアウトブレイクにおいて病原体を調査している中国・国家衛生健康委員会(NHC)専門家の鍾南山グループ長は、広東省でヒトからヒトへの感染(ヒト→ヒト感染)が確認されたと発表され、大分県では令和2年3月に初めて確認されて1年と3ヶ月が過ぎようとしているが、感染した人は1,500人を超え、各地でクラスターが発生するなど、収束の兆しが一向に見えないまま現在に至っている。

政府は長期間にわたって感染拡大を防ぐために、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策を、これまで以上に日常生活に定着させた「新しい生活様式」という用語を作り国民へ周知徹底を呼び掛けている。また、新型コロナウイルス感染症のまん延予防のため、円滑なワクチン接種を実施するため、令和3年2月から医療従事者へのワクチン接種が始まり、続いて高齢者への接種を行っているが集団免疫を獲得するにはまだまだ先となる見込みとなっている。

一方で国立感染症研究所が変異ウイルスを調べる検査の結果などをもとに示した推定では大阪府と兵庫県、京都府の2府1県では2021年2月から変異ウイルスが急増し始め、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の1都3県では、6月初めの時点で90%が変異ウイルスに置き換わると推定している。

また、新型コロナウイルスの治療薬として国内外の製薬会社が新たな治験を始め患者のデータを集める予定で、まとめ次第、厚生労働省に提出し、承認を目指している。新型コロナウイルスが季節性インフルエンザと同様に扱えるようになり、新型コロナウイルスが流行る以前の生活に戻っていただけることを望んでいる。

このようないつ起こるか分からない災害に備え、地域医療支援として、住民に対し、医療機関が連携して何ができるかを検証し、安全で質の高い医療の提供だけでなく、災害時に必要な医療情報の提供や情報伝達ができる連携網の構築を行政にも働き掛け、積極的に進める必要がある。光ファイバーで医療機関を結んだ「ゆけむり医療ネット地域医療連携システム」が開始10年目を迎え、地域医療の支援ツールとして、災害と医療をテーマに新たな仕組みによる質の高い医療と情報の連携が期待できる。

今年度の市民救急フォーラムは新型コロナウイルス感染拡大対策のため中止となった。

健 診

平成20年度より始まった特定健康診査(特定健診)が、30年度を第3期として新たに5年計画で3年目を迎えた。計画期間の実施率の目標は特定健診・保健指導の実施率をそれぞれ70%、45%に維持することを国が掲げている。別府市国保では受診勧奨を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大対策として特定健診が自粛となったため個別の実施医療機関では昨年度比で478件の減少となった。当センターも同様に集団検診が中止となり昨年より120件

減少した。

協会けんぽ生活習慣病予防健診は、令和元年度は2,697件であったが、令和2年度は2,581件で116件の減となり、人間ドックでは令和元年度は31件、令和2年度は29件で、2件の減となった。

労働安全衛生法に基づく事業所検診は、令和元年度は4,704件であったが、令和2年度は4,557件となり、147件の減となった。

協会けんぽ生活習慣病予防健診の収入は、令和元年度は41,554,164円に対して、令和2年度は39,408,566円で2,148,598円の減収となった。

人間ドックの収入は、令和元年度は649,750円に対して、令和2年度は541,400円で108,350円の減収となった。

事業所検診、別府市職員健診関係、病医院従業員・職員健診の収入は、令和元年度は26,197,889円に対して、令和2年度は25,833,064円で364,825円の減収となった。

医師国保健診、歯科医師国保健診、原爆被爆者健診等の生活習慣病健診の収入は、令和元年度は2,469,526円に対して、令和2年度は2,110,036円で359,490円の減収となった。

別府市がんセット検診、住民検診、特定健診関連の収入は、令和元年度は34,320,505円に対して、令和2年度は35,855,188円で1,534,683円の増収となった。主な要因はがんセット検診の受診者は増だったが、特定健診（集団）、肺がん検診が人数予約制となり、新型コロナウイルス感染予防対策の影響で健診の自粛のため減少した。

学校検診と心臓検診（委託料収入）の収入は、令和元年度は12,745,340円に対して、令和2年度は12,436,132円で309,208円の減収となった。この要因としては医師会看護学校の健診が准看廃止により減少したためである。

予防活動収入は、令和元年度は1,645,060円に対して、令和2年度は2,750,610円で1,105,550円の増収となった。主な要因は競輪選手と関係者へ新型コロナ抗原定性検査を121件行った影響で増収となった。

機器共同利用は、令和元年度は306件、1,788,525円に対して、令和2年度は319件、1,943,621円で155,096円の増収となった。

特定保健指導は、大分総合健診センター（OHC）、厚生連健康管理センター、地域保健センターの3機関で行っているが、令和元年度は212件、1,570,680円に対して令和2年度は339件、2,587,683円で1,017,003円の増収となった。

健診事業の利用収入の総計では、令和元年度は122,941,439円に対して、令和2年度は123,466,300円で524,861円の増収となった。（補助金、繰入金収入等を除く）

令和2年度に健診で発見された、がん症例は、肺がん1名、胃がん1名、乳がん2名であった。肺がん・胃がん・乳がんの発見にご尽力いただいた読影委員会は、令和2年度は胸部班15名でのべ228回、胃部班10名でのべ196回、マンモグラフィー班6名でのべ125回の読影をして頂いた。受診者に対しては例年3ヶ月後に見直しと精密検査勧奨を行っている。

平成31年度の二次精密検査受診率は胃部X線51.1%（平成30年度58.1%）、胸部X線45.1%（同69.3%）及び心電図51.2%（同50.6%）、マンモグラフィー78.5%（同89.2%）で前年度と比較し胃部X線が7.0%、胸部X線が24.2%、マンモグラフィーが10.7%下降、心電図が0.6%上昇した。

地域保健センター運営連絡会は会長、副会長、担当理事2名、職員6名で2ヶ月に1回の割合で年間6回開催した。地域保健センター運営委員会は今期も開催しなかった。

検 査

令和2年度もファルコバイオシステムズに全面委託し検査業務を行っている。業務体制では、生化学、血液一般検査の2部門は継続し、常勤職員の臨床検査技師2名については昨年同様にファルコバイオシステムズへ出向という形式で行っている。

令和2年度収入は、前年度と比較すると約8.5%の減となっている。その要因については、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で検査項目並びに別府市の大腸がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診の検査項目についても患者の受診抑制が影響している。

特定健診の検査依頼からデータ入力・報告書作成、国への報告・請求データファイルの作成までの業務代行手数料として1件750円（税抜き）、児童・生徒生活習慣病予防健診でのデータ入力・報告書作成、別府市への報告・請求データ処理の業務代行手数料として1件450円（税抜き）をそれぞれの実施医療機関から代行手数料として徴収しているが、今年度から個別医療機関で実施した特定健診データを個人のスマートフォンのアプリに結果を返すサービスをゆけむり医療ネットで始めたため、地域保健センターへ業務移管した。

精度管理は例年同様、日臨技精度管理、日医精度管理及び県医精度管理調査に参加し優秀な成績を収めた。

ファルコバイオシステムズとの協議する場として検査運営協議会を平成29年度より3ヶ月に1回開催し、検査実績報告や業務委託費収支報告、問題点などを協議している。

令和2年度は平成18年度より5年契約3度目15年間の契約が今年3月で満了を迎え、昨年の7月の運営協議会でファルコ社から次期契約について提案内容が提示された。内容については現在の契約とは大きく異なり、固定費として月400万と変動費として保険点数の45%を委託費として支払い、必要な経費として労務費（人件費・保険料）と家賃・共益費等を請求することとなっていた。現在の契約内容では売り上げから消費税や施設管理繰入金などの経費を差し引き、業務委託費としてファルコ社へ支払い、必要な経費として労務費（人件費・保険料）と家賃・共益費等を請求していたため医師会としては売上の上下に関係なく安定していたことにより現在の契約内容と比較した場合に医師会の負債が約2,500万円と大きいため、ファルコ社の提案が妥当か他社へ見積を取り比較検討することを伝え、契約内容の再度見直しを要求した。10月の運営協議会で再提出された原案は前回の提案と比較して変動率45%から43%の2%減と検査技師1名増員分を減額した案が示されたが、それでも現在の契約内容と比較した場合に約1,600万円を超える債務超過となるため、他社へファルコ社の提案が妥当か見積依頼をしたが詳細な精査が必要で契約変更についても準備に6ヶ月くらいの期間がかかるため、今年3月の契約満了までに間に合わないとの回答だった。理事会としては、極力現状と変わらない方法を取れないか検討するため12月に検査運営検討会を立ち上げて検討した結果、まずは会員へ現状をご報告しご意見を募ることになり、1月にファルコ社と1年間継続更新するか、検査事業を廃止するか、さらにその他の案を調整する3つの選択をそれぞれのメリット・デメリット

学 校 医

本年度は新型コロナウイルスまん延にともない、学校検診が例年6月中に終了するよう依頼されていたが、今年度は年度中に終わらせるよう、変更となり、また会議も、全国学校保健・学校医大会は現地開催とWeb開催のハイブリット方式で、大分県医師会学校医部会定例総会は書面決議、別府市学校保健大会は規模を縮小し、表彰のみへと変更された。

今年度は、学校医の辞退および統合による変更が多かったが、皆様のご協力のおかげで、後任選出もスムーズに行えた。しかしながら、耳鼻科や眼科の先生方には年々負担が増える傾向にある。少子化により、今後学校数の減少も考えられるが、負担を軽減できるよう考えていきたいと思う。

令和2年11月14日 第51回全国学校保健・学校医大会（ハイブリット方式）

12月25日 大分県医師会学校医部会定例総会（書面決議）

令和3年1月28日 令和2年度別府市学校保健大会（功労者表彰のみ）

産 業 医

今年度は入・退会などで、合計89名の認定産業医が所属している。

産業保健事業については、平成26年4月より産業保健センター事業、地域産業保健事業、メンタルヘルス対策支援事業の3事業が一元化され、大分県中部地域産業保健センターとして、産業保健活動総合支援事業を実施しているが、令和2年度も引き続き、別府市医師会が、本事業を受託している。

大分県中部地域産業保健センターには、代表として別府市医師会長、運営主幹として担当理事が委嘱されている。事業の目的・事業内容・方法等は下記の通りであるが、現在、別府市医師会では27名の産業医と地域保健センター所属の2名の保健師が、健康診断後の特定健康相談、メンタルヘルス相談、長時間労働者面接指導にあっている。

また、大分県医師会主催の産業医研修会については、今年度よりテレビ会議システムを利用した研修会が始まり、本会では第2回と第4回の開催について会場提供というかたちで協力した。3密対策として会場の収容人員を半数にした20名に制限しての開催とはなったが、大分県医師会館から配信される内容を視聴するという形式は、参加者が日常の診療後に大分県医師会館まで出向かなくてよいため、参加者からは概ね好評であった。ただし、サテライト会場という制限があるため、スライド・映像の共有、音声の調整、質疑応答の際の対処など、大分県医師会館と同じ条件での聴講を担保するためには、今後、万全な環境準備が求められる。

【令和2年度地域産業保健事業・概要】

事業内容：産業医等の選任義務のない50人未満の小規模事業場の事業主および労働者に対し、労働者の健康管理等の産業保健サービスを実施する事業

①健診後の特定健康相談

- 健康診断結果に基づく医師の意見聴取
- 脳・心臓疾患のリスクが高い労働者に対する保健指導
- メンタルヘルス不調の労働者に対する相談・指導

②長時間労働者に対する面接指導

③高ストレス者に対する面接指導

実施方法：労働者からの依頼を受け、労働者の利便性を考慮しながら、協力を申し出ている登録産業医へコーディネーターから日程調整を行う。

指導料等：指導料 12,300 円 / 時間 + 相談場所提供料 5,000 円

大分県中部地域産業保健センター

運営協議会（紙面開催）

大分産業保健総合支援センター

令和2年6月15日 産業医研修会（於：別府市医師会）

令和2年7月6日 産業医研修会（於：別府市医師会）

大分県医師会

令和2年8月18日 第2回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

令和2年10月21日 第4回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

健康スポーツ医

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出自粛、在宅勤務の推進、運動施設の営業自粛などが行われていることで、国民全体として身体活動が大幅に減少しているが、特に中高年齢者については、体力の低下、生活習慣病等の発症や生活機能の低下（骨や関節、筋肉等の運動器が衰えるフレイルやロコモティブシンドローム、認知症等）をきたすリスクが高まっている。

このため、意識的に運動・スポーツに取り組むことは、健康の保持だけでなく、将来的な要介護状態を回避するにも有効であり、スポーツ庁では、①屋内（自宅）で行える運動・スポーツ（主に中高年齢者を対象とした体操等）の実施を推進するための事例を紹介するとともに、②安全にウォーキングやジョギングを行う際の留意点を示している。

高齢化が進むなかで生活習慣病予防のためにも、スポーツを通しての健康維持と増進については、以前より強調されているところではあったが、コロナ禍の影響によりその実践については、より一層の推進が必要であり、そのためには、かかりつけ医、健康スポーツ医、学校医、産業医の協力が必要不可欠となっており、とりわけ健康スポーツ医への期待と求められる責任は大きなものになっている。

本会では、広く健康スポーツ医活動について研鑽を深め、包括的な健康スポーツ医活動を推進する目的で、平成4年に健康スポーツ医部会を発足させ今年度で28年目を迎えている。

また、令和2年度の日医認定健康スポーツ医は、入会・退会・更新等を含めて、合計14名となっているが、単位更新については、大分県内で開催される認定再研修会の機会が少ないという問題もあり、先生方には県外で単位修得していただくというケースも少なくない。

日本医師会認定健康スポーツ医制度は、更新要件として、再研修会の受講修了だけではなく、健康スポーツ医としての活動（学校、職場、地域等におけるスポーツ医学の立場からの指導・教育・診療活動等）が義務付けられているが、会員の増加や単位修得に関しては、別府市医師会主催で再研修会を開催するなど、これまで以上に努力していく必要がある。

令和3年3月6日 令和2年度大分県医師会講演会（スポーツ医学）

初期救急医療事業

夜間こども診療の令和2年度の受診者数は1,798人（令和元年度3,885人）で、前年度より2,087名の減となり、平成16年に夜間こども診療を開始して最低の受診者数を記録する事態となった。

言うまでもなく新型コロナウイルス感染症による受診控えと感染症対策のためではないかと推測される。大幅な赤字に転落するところであったが、市の援助や国の補助金によって何とか前年並みに落ち着いた。今後もこの様な状況が続き、一層困難になることが予想される。存続を希望する別府市を含む東部医療圏域の市町村と協力し、運営維持を行っていく所存である。

二次医療機関への転送は74件（令和元年度126件）と昨年より52件の減少となった。

内訳は、疾病によるものが34件（令和元年度62件）、外傷などの外的要因のものが40件（令和元年度50件）と昨年度より疾病は30名程度、外傷は10名減少した。

休日内科診療は、本年で5年が経過したが、先にも述べた受診控えと感染症対策のためか今年度は110名（令和元年度312名）と前年度と比べて220名の減少となった。

この厳しい状況の中、岩永成晃先生の協力の下、11月より火曜日と木曜日の午後にけんこうパークの2階で婦人科診療を開始した。安定した受診者数をかぞえ、順調に推移している。新型コロナウイルスの影響がどの程度続くのかは不透明だが、市民が安心して受診出来る仕組みづくりを目指し、今後も努力していく所存である。

令和2年9月25日 第1回初期救急医療事業運営連絡会

10月7日 第2回初期救急医療事業運営連絡会

《看護教育部》

准 看 護 学 科

准看護学科は前年度に既に募集停止をしていたので、令和2年度の新入生はいない。新2年生（19回生）は39名（内、男子5名）の進級者と昨年度の留年生2名（内、男子1名）を含む41名（内、男子6名）でスタートしたが、前期に進路変更にて女子1名が退学。また、女子6名と男子1名が学科成績に抵触し留年が決定。後期に入り留年生2名共が実習成績に抵触し退学となり、卒業は31名（内、男子4名）となった。准看護師試験には31名全員が合格できた。

この学年は、1年次に留年が出来ない事から学科試験に再々試や課題提出を認めるなど考慮した学年でもあったので、早い時期より学習強化を試みたが、2年次早々の終了試験の平均点が昨年度の学生よりも20～30点も低く、中々学習効果が表れず、6月上旬の早い時期に留年が決定してしまった。

例年と大きく変化したのは、大分県生活環境部私学振興・青少年課からの「新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業の対応」を受けて、4月20日（月）～5月1日（金）に休校措置を取り、その間のカリキュラムを急遽変更し、感染対策を実施ながらクラス運営を行った。また、2年次最初の実習である成人老年看護実習Ⅰは臨床での実習受け入れを全て断られ、学内実習に変更し検討しながら実施した。その後の実習も施設の状況により日程や実習方法を適宜変更するなど対応に追われた。結果として、例年よりも臨床経験が少なく、「患者の状態に応じた看護援助を立案し、安全・安楽に実施する」ことに課題が残った。

准看護師試験の取り組みとして、例年よりも特に成績低迷者の学習を強化する為に、教員が手分けして「人体のしくみと働き」と、それに関連する「成人看護」の補習講義に力を注いだ。その結果、1月中旬過ぎより成績向上が見られた。また、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、19時までの居残り学習指導を繰り返したことで、知識の定着に繋がったと思われる。

厳しい財政の中、次年度は留年生のみとなるが、3年課程開設準備においても教育の質の向上は不可欠であり、十分な数の教員の確保が必要となる。依然として学校を取り巻く状況は厳しいため、今後とも会員各位のご理解とご協力をお願いしたい。貴重な援助を無駄にしないよう、よりレベルの高い准看護師・看護師を育成していく努力を続けていく所存であるので、ご指導ご鞭撻をお願いしたい。

令和2年4月1日	前期始業式 ※新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、科別に実施
6日	採血・採尿・胸写
5月9日	看護の日 ※新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、科別に実施 火災避難消防訓練 ※新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、科別にDVD学習
5月11日～5月28日	成人老年看護実習Ⅰ ※新型コロナウイルス感染の影響により学内実習に変更
6月8日～9月18日	2年生：成人老年看護実習Ⅱ・手術室実習、老人ホーム実習、 母子看護実習

7月22日	健康診断 看護学科説明会
23日～8月22日	夏季休暇
8月17日～21日	男子母性学内実習
(中止)	中四九地区医師会看護学校協議会 ※新型コロナウイルス感染拡大により中止
25日	看護学科学生との懇談会
27日	第1回全国模擬試験
9月25日～10月13日	精神看護実習
10月26日～11月16日	成人老年看護実習Ⅲ
11月17日	第2回全国模擬試験
(中止)	実習指導者会議 ※新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、中止
12月19日～3年1月5日	冬季休暇
14日	第3回全国模擬試験
2月12日	卒業判定会議
16日	大分県准看護師試験
18日	「看護に対する私の思い」発表
19日	送別会
3月3日	卒業式
27日	留年の言い渡し

看護学科

令和2年4月2日に、令和2年度別府市医師会看護専門学校入学式が行われた。看護学科1年（35回生）は31名（内男子7名）が入学し、31名でスタートした。2年（34回生）は35名（内男子10名）が進級し、35名でスタートした。3年（33回生）は28名（内男子9名）が進級し、28名でスタートした。令和2年度は全学年で成績不良や家庭の事情を理由に退学したものは2名であった。

令和2年度看護師国家試験は2月14日に行われ、33回生25名が受験し24名が合格した。全国平均は90.4%であった。

令和2年度入学試験は、推薦枠で9名（内男子3名）、一般一次で21名（内男子6名）、追加募集で5名（内男子1名）、合わせて35名（内男子10名）に入学許可を出したが、入学者は27名（内男子6名）に留まり、定員の45名を大きく下回る結果となった。

令和3年度の新1年生は28名（内男子6名）、新2年生は30名（内男子7名）、新3年生は35名（内男子11名）でスタートする。

令和4年4月の3年課程への課程変更に伴い、今年度より准看生の入学者はいない。看護学科は今年度の入学生をもって閉じていく。課程変更を行っていくにあたって、本会より多額の補助金繰入が必要となっている。

当看護学校を卒業した看護師は、地元への就職率が非常に高く、長年にわたり地域医療に貢献してきた。質の良い看護師養成のためには、優秀な指導者の養成・確保と環境整備は重要な課題である。教員の数の充実と定期的な指導者養成プログラムへの参加、適正な講師料設定に

よる人材確保など今後も努めていきたい。

会員の皆様の貴重な援助を無駄にしないよう、よりレベルの高い看護師を育成していく努力を続けていく所存であるので、ご指導ご鞭撻をお願いします。

令和2年4月1日	前期始業式
2日	入学式
3日	新入生ガイダンス
7日	1年生：健康診断（採血・採尿・胸写）
10日	2年生：健康診断（採血・採尿・胸写）
5月9日	看護の日及び火災避難消防訓練
25日～27日	1年生：宿泊研修
6月3日	3年生：健康診断（採血・採尿・胸写）
7月1日	1年生：健康診断（内科診察）
18日	2年生：健康診断（内科診察）
27日	3年生：模擬試験
28日	3年生：健康診断（内科診察）
(中止)	中四九地区医師会看護学校協議会
30日～8月23日	3年生：夏季休暇
8月2日～26日	2年生：夏季休暇
6日～30日	1年生：夏季休暇
28日～9月12日	2年生：前期試験
9月7日～9日	1年生：前期試験
14日	3年生：模擬試験
14日～16日	2年生：宿泊研修（学内で集中講義に変更）
(中止)	1年生：大分空港航空機事故対処総合訓練
11月9日	3年生：模擬試験
19日	令和3年度推薦入学試験
29日	3年生：大分県病院学会出席（WEB）
12月7日～24日	2年生：基礎看護実習
(中止)	教員FD研修
7日	3年生：模擬試験
9日	3年生：後期試験
21日	3年生：模擬試験
24日～3年1月5日	1年生：冬季休暇
27日～3年1月6日	2年生：冬季休暇
24日～3年1月3日	3年生：冬季休暇
1月5日	3年生：模擬試験
21日	令和3年度一般入学試験（一次募集）
14日～22日	2年生：後期試験
19日	3年生：模擬試験

25日～27日	2年生：保育所実習（3日間）前半
2月1日～3日	2年生：保育所実習（3日間）後半
3日	卒業判定会議
8日～17日	1年生：後期試験
9日・10日	2年生：母性・市役所実習
14日	第110回看護師国家試験
15日	2年生：領域別実習開始
24日	令和3年度一般入学試験（追加募集）
3月1日	3年生：看護観発表
2日～31日	1年生：春季休暇
4日	卒業式
24日	単位修得判定会議
27日	全員登校日（成績表配布等） 学校長より単位未修得者への言い渡し

別 大

令和2年度の「別府市医師会との講師連絡協議会」は実施しなかった。

別府大学附属看護専門学校、令和2年度入学生は21名であり、高等学校衛生看護科から2名、准看護師養成所から19名、別府市医師会看護専門学校准看護学科からは4名（新卒3名・既卒1名）であった。

令和3年3月に卒業した30名（第50回生）の県内への就職者は21名であった。

第110回看護師国家試験の合格者は28名、合格率は93.3%であった。

平成14年に開設された明豊高校看護科（5年一貫教育制）における令和2年度入学の高校本科1年は35名（うち男子1名）、2年25名（うち男子1名）、3年37名（うち男子2名）、専攻科1年37名（うち男子1名）、2年29名（うち男子5名）である。15回生の卒業生数は29名で、令和2年度看護師国家試験に29名が受験し、合格率は96.6%であった。15回生の就職状況は県内25名、県外3名、進学1名で、そのうち別府市内への就職は10名である。現在、明豊高等学校看護科の講師として、10名の医師会会員の先生方にご協力いただいている。

看護職研修会

看護職研修会は別府市医師会の医療機関で働く看護職の資質の向上等を目的として、実行委員会が研修を企画、運営をしている。実行委員は、3年毎に別府市内の医療施設より選出していただき、計6名が年に数回委員会を持ち活動している。

令和2年度は、毎年開催している「フィジカルアセスメント」研修を企画していたが、新型コロナウイルスの影響を懸念し、残念ながら中止となった。

令和2年度に実施した看護職研修会行事および実行委員会は以下の通りである。

I. 予定されていた研修会

- ① フィジカルアセスメント（呼吸器・循環器・消化器）
日時：令和2年10月頃（日時調整中であった）
場所：大分県立看護科学大学 実習室
講師：大分県立看護科学大学 看護アセスメント学研究室
教授 藤内 美保先生

検討した結果、本年度は中止となる

II. 実行委員会

- ① 第1回実行委員会
日時：令和2年4月18日（土）13：00～14：00
新型コロナウイルス感染防止のため、令和元年度第4回と兼ねて開催
- ② 第2回実行委員会
日時：令和2年9月5日（土）13：00～14：00
- ③ 第3回実行委員会
日時：令和3年3月6日（土）13：00～14：00

《地域福祉部》

令和2年度の地域福祉部門実績です。

別表参照をお願いします。

1. 訪問看護ステーション

営業報告では年間新規利用者数47名(52名)(以下かっこは前年度)終了者42名(55名)で利用者±0名(-1名)でした。月末利用者数平均56.7名(59.8名)、訪問回数平均309.4回(299.7回)でした。会計報告では年間事業収益30,872,057円(31,402,913円)、年間事業経費32,809,203円(31,461,546円)、年間事業利益-1,937,146円(-58,633円)でした。コロナ感染対策費の増加のため経費の増加、利用人数、訪問回数の変化はありませんが訪問単価の減少が収益減少の要因でした。

2. 居宅介護支援センター

営業では年間ケアプラン作成869件(828件)、予防介護(委託)125件(174件)認定調査31件(75件)でした。会計は年間事業収益10,612,257円(8,815,681円)、年間事業費用11,383,090円(8,604,419円)、年間事業利益-770,833円(211,263円)でした。案件数及び事業収益は昨年同様でしたが、今後訪問看護ステーションに必要な専従ケアマネ育成のため増員したため人件費等が事業費用増加し減益となりました。

3. ヘルパーステーション

営業報告では年間新規利用者数12名終了15名(新規16名終了9名)、月末利用者平均35人(34人)、訪問回数平均234.7回(292.1回)で、訪問回数減少が目立ちました。

会計では年間事業収益8,033,958円(9,826,398円)、年間事業費用9,927,645円(9,587,245円)年間事業利益平均-1,893,687円(239,153円)となり、コロナ対策のため費用の増大と利用者数はほぼ変化はないものの利用回数の減少により減収減益となりました。ヘルパー事業自体が厳しい状況であるがコロナ禍でさらに悪化しました。

コロナ禍に地域福祉3部門とも減収減益となりました。経費増加にはなりますがしっかりとした感染対策を行い利用者数の増加が必要となっております。度々で申し訳ございませんが会員様より利用者をご紹介頂ければ収支改善が見込まれます。よろしくをお願いします。

訪問看護ステーション

訪問看護ステーション利用状況

平成31年度・令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	3	7	5	9	4	3	5	3	6	2	4	3
終了者数(名)	5	1	9	3	4	7	3	4	4	6	3	6
月末現在数(名)	56	62	57	64	63	59	61	60	62	58	59	56
訪問回数(回)	287	284	283	368	338	229	301	297	319	301	288	301
令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	6	5	2	4	3	2	2	4	6	1	8	4
終了者数(名)	6	3	5	6	3	2	4	0	3	6	2	2
月末現在数(名)	57	59	56	54	54	54	52	56	59	55	61	63
訪問回数(回)	316	289	336	287	273	297	303	289	350	282	325	366

大分県訪問看護ステーション協議会

令和2年5月13日

訪問看護ステーション運営委員会

令和2年6月23日・令和3年1月25日

精神保健対策小委員会

令和2年8月11日

訪問看護ステーション運営連絡会

令和2年9月25日・令和3年3月15日

居宅介護支援センター

居宅介護支援センターケアプラン作成状況

平成31年度・令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	31	36	39	36	35	34	35	33	36	33	37	36
要介護2	19	17	19	18	16	16	15	14	12	11	10	12
要介護3	5	6	4	5	7	6	8	9	10	9	8	9
要介護4	4	6	4	4	4	5	6	7	8	8	11	12
要介護5	4	4	6	5	7	6	6	5	4	5	6	5
総計	63	69	72	68	69	67	70	68	70	66	72	74
予防介護(委託)	14	15	17	17	16	16	16	13	14	11	13	12
令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	37	35	35	34	30	34	33	34	34	35	34	33
要介護2	12	14	17	15	16	14	16	17	19	20	17	15
要介護3	10	8	9	10	9	9	9	9	7	6	5	5
要介護4	11	11	9	7	7	9	8	7	6	4	5	6
要介護5	7	8	6	5	6	4	7	7	8	7	7	9
総計	77	76	76	71	68	70	73	74	74	74	68	68
予防介護(委託)	12	11	10	10	12	11	11	12	11	9	8	8

申請代行・認定調査

平成31年度・令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(名)	5	2	10	4	10	8	6	6	8	5	5	6
令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(名)	8	2	3	2	1	3	3	2	3	1	2	1

別府市介護支援専門員協会総会・研修会

令和2年7月4日・令和3年3月29日

認定調査現認研修

令和3年2月1日・3月18日

居宅介護支援センター運営委員会

(訪問看護ステーション運営委員会と同時に開催)

居宅介護支援センター運営連絡会

(訪問看護ステーション運営連絡会と同時に開催)

ヘルパーステーション

ヘルパーステーション利用状況

平成31年度・令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	5	1	1	2	0	0	1	0	1	2	1	2
終了者数(名)	0	0	2	0	1	0	1	1	0	2	1	1
利用者数(名)	31	35	33	35	34	36	36	35	36	33	33	35
訪問回数(回)	248	254	284	340	346	314	342	300	316	229	249	283
令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	2	2	2	0	0	0	1	0	2	2	1	0
終了者数(名)	1	1	0	1	1	1	0	3	4	1	0	2
利用者数(名)	37	37	35	35	34	36	37	34	33	34	35	33
訪問回数(回)	289	249	269	256	227	233	258	226	192	189	196	232

ヘルパーステーション運営委員会

(訪問看護ステーション運営委員会と同時に開催)

ヘルパーステーション運営連絡会

(訪問看護ステーション運営連絡会と同時に開催)

介護保険

今年度も新型コロナウイルスまん延のため特に大きな動きもなかったが、3年度に控える介護報酬改定の概要が示された。

感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を図ることを目的とし、改定率: +0.70%とプラス改定となった。

「感染症や災害への対応力強化」は、感染症や災害が発生した場合、利用者に必要なサービ

スが安定的・継続的に提供される体制構築を目的とし、「地域包括ケアシステムの推進」は、住み慣れた地域において、利用者の尊厳を保持しつつ、必要なサービスが切れ目なく提供されるよう取組を推進することを目的とし、「自立支援・重度化防止の取組の推進」は、制度の目的に沿って、質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を推進、「介護人材の確保・介護現場の革新」は、喫緊・重要な課題として、介護人材の確保・介護現場の革新に対応すべく、手続きの簡素化や処遇改善を行うなどの取組を行い、制度の安定性・持続可能性の確保」は、必要なサービスは確保しつつ、適正化・重点化を図ることを推進すると示された。

新型コロナウイルスまん延のため影が薄れ、存じ上げない方もいらっしゃると思うが、内容を再確認していただきたい。

介護認定審査会は、皆様方のご協力により引き続き変更なく引き受けて頂き感謝申し上げる次第である。今年度の審査会の開催回数及び審査件数は、別府市・日出町で日中・夜間合わせて230回開催され、8,408件が検討された。今後も、引き続きご協力をお願いしたい。

令和2年8月21日	第1回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会
10月16日	第2回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会
12月18日	第3回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会
令和3年2月19日	第4回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会